

特別ゲストⅡ 森村泰昌 (美術家)

塩見允枝子 (音楽家)

パネリストⅡ 加治屋健司 (広島市立大学芸術学部准教授)

加須屋明子 (京都市立芸術大学准教授)

石原友明 (京都市立芸術大学准教授)

主催Ⅱ京都市立芸術大学「創造のためのアーカイブズ」研究会
共催Ⅱ京都市立芸術大学(京都市立芸術大学特別研究助成事業)

京都市立芸術大学連続シンポジウム
「創造のためのアーカイブズ」
Part 1
「未完の歴史」
2012年10月7日(日) 午後1時~4時10分
京都市立京都堀川音楽高校音楽ホール
入場無料

A R C H I V E S
Kyoto City University of Arts
A series of symposium "Archive for Creation" part 1
"Unfinished History"
October 7, 2012 PM1:00 - 4:10
Music Hall, Kyoto Horikawa Senior High School of Music
admission free
Special guests :
MORIMURA Yasumasa (artist)
SHIOMI Mieko (composer)
Panelists :
KAJIYA Kenji (associate professor, Hiroshima City University)
KASUYA Akiko (associate professor, Kyoto City University of Arts)
ISHIHARA Tomoaki (associate professor, Kyoto City University of Arts)
organized by Society for the research of "Archives for Creation", KCUA
F O R
C R E A T I O N

写真：森村泰昌アーカイブより (撮影：石原友明)

歴史は未完のままにおかれている。歴史と私たちの間には未だに往還可能なパサージュが開かれていなければならないのだ。歴史が単なる原因と結果の系列であるならば、現在とは玉突き式に継起される時間の先端であるに過ぎず、そこからの過去の眺めは“私たちの現在”を正當化するためのパースペクティブをなしているだけのことになってしまいうだろう。ドイツの哲学者、ヴァルター・ベンヤミンは文化財の歴史を野蛮の記録と呼んだが、それは自らが勝利者であるという立場から歴史を捉えることが、一方的な眼差し（閉ざされたパサージュ）によっていかに歴史を歪ませてきたかをいうものである。

私たちはここで文化財ではなく、あえて文化資源という言葉を用いることにしたい。これまでは『財』（勝利者の遺産と見なされてこなかったものも含めてさまざまな事物や情報が、時間的なパサージュの向こうで、未だ可能性の状態において私たちを待ち受けていると思うからである。今回のシンポジウムでは、二人のアーティストを囲んだ議論を通じて、独創的な表現とは実のところ歴史への新たな眼差しの産物でもあることが明らかにされることになるだろう。

私たちが掲げた「創造のためのアーカイブズ」というタイトルは何ら逆説ではない。アーティストが一種本能的に過去を参照するのは、繰り返すためではなく、新たな光のもとに蘇生させるためなのである。このシンポジウムが、まさに文化資源の宝庫である京都の市民の方々の多数のご参加を得ることを願う次第である。

建畠哲（京都市立芸術大学学長）

京都市立芸術大学連続シンポジウム

【創造のためのアーカイブズ】Part 1

「未完の歴史」

2012年10月7日(日)

プログラム

13:00 開会挨拶：石原友明

13:15 プレゼンテーション1：森村泰昌

13:45 プレゼンテーション2：塩見允枝子

14:15 休憩

14:30 パネルディスカッション「創造のためのアーカイブズ」

森村泰昌・塩見允枝子・加治屋健司・

加須屋明子・石原友明

16:00 閉会挨拶：建畠哲学長

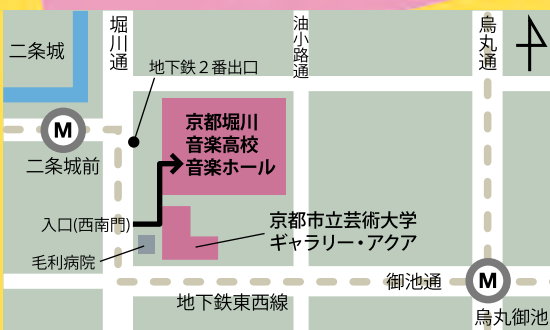
資料展示

塩見允枝子氏・森村泰昌氏所蔵資料 於 音楽ホール・ロビー

主催：京都市立芸術大学「創造のためのアーカイブズ」研究会

共催：京都市立芸術大学（京都市立芸術大学特別研究助成事業）

問合せ：京都市立芸術大学教務学生支援室 TEL 075-334-2231



●地下鉄二条城前駅2番出口
●市バス堀川御池バス停すぐ

塩見允枝子 SHIOMI Mieko

1938年生まれ。1961年東京芸術大学音楽学部楽理科卒業。大学在学中より「グループ・音楽」を結成し、即興演奏やテープ音楽の制作を行う。1964年ニューヨークに渡り、前衛芸術運動フルクサスに参加。1965年メールによるイベント「スペイシャル・ポエム」開始。1969年音楽や映像、美術、舞踊など多ジャンルの融合の実験としてクロストーク・インターメディアに参加。1970年より活動の拠点を大阪に移し、言葉と音を軸にした室内楽やシアター作品を発表。90年代から電子テクノロジーへの関心を持ち、音と視覚的要素を結合したパフォーマンスを展開する一方、マルチブルの作品等で欧米での数々のフルクサス展に参加する。

森村泰昌 MORIMURA Yasumasa

1951年生まれ。京都市立芸術大学専攻科修了。1985年ゴッホの自画像に扮するセルフポートレート写真を発表。以降一貫して「自画像的作品」をテーマに国内外で活躍、1988年第43回ヴェネツィアビエンナーレ／アベルド、1996年「美に至る病／女優になった私」（横浜美術館）、1998年「空想美術館／絵画になった私」（東京都現代美術館他）、2010年「なにものかへのレクイエム／戦場の頂上の芸術」（東京都写真美術館他）など。著書に『森村泰昌／全女優』『まねぶ美術史』『対談 なにものかへのレクイエム／20世紀を思考する』ほか多数。2007年度芸術選奨文部科学大臣賞、2011年第52回毎日芸術賞、第24回京都美術文化賞、2011年紫綬褒章受章。

加治屋健司 KAJIYA Kenji

1971年生まれ。東京大学大学院総合文化研究科博士課程、ニューヨーク大学大学院美術研究所博士課程、スミソニアンアメリカ美術館給費研究員を経て、2007年より広島市立大学芸術学部准教授。日本美術オール・ヒストリー・アーカイヴ代表。共著に『マーク・ロスコ』（淡交社、2009年）、共訳書にイヴ・アラン・ボワ、ロザリンド・クラウス『アンフォルム 無形なもの事典』（月曜社、2011年）。

石原友明 ISHIHARA Tomoaki

1959年生まれ。1984年京都市立芸術大学大学院造形構想修了。主な展覧会に、1988年第43回ヴェネツィアビエンナーレ／アベルト、1998年「美術館へのパッサージュ」（栃木県立美術館）、2004年「石原友明展 [I]」（西宮大谷記念美術館）、2006年「rapt!-20 contemporary artists from Japan」（Monash University Museum of Art, Melbourne）など。現在、京都市立芸術大学美術学部准教授。

加須屋明子 KASUYA Akiko

1963年生まれ。1989-1991年ヤギェウォ大学哲学研究所美学研究室（ポーランド）留学。1991年京都大学博士後期課程美学美術史学専攻修了。同年より国立国際美術館学芸員。2008年より京都市立芸術大学准教授（総合芸術学科）。主な共著に『ポーランド学を学ぶ人のために』（世界思想社、2007年）、共訳書に『アヴァンギャルド宣言』（三元社、2005年）など。

予告 | 京都市立芸術大学連続シンポジウム【創造のためのアーカイブズ】Part 2

「物質と記憶」

2012年11月7日（水）午後3時～6時30分

京都芸術センター（フリースペース）

レクチャー：下条信輔（カリフォルニア工科大学教授）・篠原資明（京都大学教授）・

建畠哲（京都市立芸術大学学長）

実験プレゼンテーション：高橋悟（京都市立芸術大学教授）